

# 御嶽海後援会便り NO. 38

令和7年10月30日

## 令和7年九月場所 西前頭十二枚目 7勝8敗

### 場所直前の計報も 通算500勝達成 1点の負け越しに止める

暑い1年となった今年も早いもので2か月を残すばかりとなりましたが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

御嶽海関は、場所2日前に母親が急逝。失意の中、九月場所に臨みました。

初日、二日目と先場所白星をあげた狼雅関、時疾風関に敗れ、不安の出だしとなりました。三日目、正代関に両差しを許すものの左を巻き替え反撃に転じ、大きな白星つかみ初日を出しました。四日目、美ノ海関とまわし待ったとなったものの終始攻められ寄り切りで敗れました。五日目、ここところ3連敗中だった明生関に迷いなく当たり、相手の変化にも足をよく運んで勝ち、序盤戦を2勝3敗で終えました。

六日目、ツアーの日、大栄翔関との熱戦を制し星を5分に戻しました。しかし、七日目から3連敗となり、黒星が大きく先行しました。十日目、中盤戦から調子を上げてきた新入幕の日翔志関を立ち合いの変化で制し、4勝6敗で中盤戦を終えました。

十一日目、朝紅龍関と立ち合いが合わず、3度目の立ち合いとなりました。相手がずらした立ち合いに反応よく対応し、寄り切りで勝ち、通算500勝をあげました。十二日目、獅司関に粘り切れず敗れ、勝ち越しに後がなくなりました。十三日目、初顔で敗れている欧勝馬関に勝ち、幕内残留が見通せる6勝目をあげました。十四日目、翔猿関との久しぶりの同級生対決となりましたが、寄り切れで敗れ、負け越しが決まりました。千秋楽、錦木関を本来の相撲で下し、7勝8敗とし、1点の負け越しに止め、来場所大きく番付を下げるなどを防ぎました。

優勝は、千秋楽に13勝2敗で両横綱が並び、本割で横綱豊昇龍関に敗れた横綱大の里関が優勝決定戦で雪辱をし、5回目の優勝を果たしました。今回も場所を振り返り、紙面とします。

### 西前頭十二枚目としての九月場所

出羽海親方、御嶽海関からのひとこと



場所前 頑張ることが供養になる。食事と睡眠を気を付けるように伝えたい。  
(出羽海親方)

場所を終えて 千秋楽は、近くで背中を押してくれたんじゃないかな。15日間は、全部おかあさんがいると思っていた。

来場所に向けて 勝ち越して、しっかりと1年を締めくくりたい。

場所	勝敗	取組	決まり手	コメント (各報道・情報機関からの要約)
初日	●	前十一 狼	雅 (寄り切り)	「いろいろありましたが、相撲頑張ります。初日はいつも楽に入れるのに、今日は硬いかなと思った。負けても今日のように元気な姿を見せられたらいい。」
二日目	●	前十三 時 疾 風	(寄り切り)	「圧力がなかった。気持ちをしっかりと持って残りをやりたい。当たれている思うから、白星につなげられるところまで持つていいきたい。」
三日目	○	前十一 正 代	(寄り切り)	「初日から体はしっかりと動いている。やっと白星につながってくれた。あと12日間、厳しい相撲を取っていきたい。」
四日目	●	前 十 美 ノ 海	(寄り切り)	「立ち合いが駄目。あんなのを取らせたら駄目。気力があっても勝たなければ意味がない。勝ちが全てだから。」
五日目	○	前十三 明 生	(押し出し)	「良くなっている。あとちょっとのところ。まだまだ自分の相撲が取れていない。引き締めてやりたい。」
六日目	○	前 十 大 栄 翔	(押し倒し)	「一生懸命やった。どうしても勝ちたかった。久しぶりに当たったので楽しませてもらった。」

- 七 日目 ● 前 八 金 峰 山 (押し出し) 「いつもふわーっと当たってくるのでやりにくい。大栄翔みたいにがちっと当たってくれればいいけど。」
- 中 日 ● 前十五 湘南乃海 (送り押し) 「立ち合いが弱かった。攻め込まれている。」
- 九 日目 ● 前十六 友 風 (押し出し) 「(敗因 動かない体、好調な相手) その両方です。」
- 十 日目 ○ 前十七 日 翔 志 (上手投げ) 「あれしか思い浮かばなかった。何が何でも勝ちたかった。」
- 十一日目 ○ 前十四 朝 紅 龍 (寄り切り) 「しっかり当たってくると思った。前に出られて良かった。この場所で達成できて良かった。もっともっと記録を伸ばしていきたい。」 ※通算 500 勝
- 十二日目 ● 前十八 獅 司 (押し出し) 「獅司はいつも張ってくる。」
- 十三日目 ○ 前 七 欧 勝 馬 (寄り切り) 「何回か稽古したんで、一方的に押されことなく、うまく中に入って攻めることができた。」
- 十四日目 ● 前十五 翔 猿 (寄り切り) 「難しかったね。もう何度もやっているから、イメージはできているんだけど・・・負け越した後が大事なので、しっかり気を引き締めてやる。」
- 千 秋 楽 ○ 前十六 錦 木 (寄り切り) 「数字は負け越しだけど、気持ちを切らさずに自分の相撲を取れて良かった。来場所につながる良い相撲が取れた。」

## ○大相撲百周年場所より



御前掛かり土俵入り



現代相撲の取組（御嶽海関と尊富士関）

10月7日（火）日本相撲協会財団法人設立100周年記念「百周年場所～古式大相撲と現代大相撲」が、国技館で開催されました。御嶽海関も元気な姿を見せ、御前掛かり土俵入り（展覧相撲の時などに行われる特別な形での土俵入りで、力士は、土俵上で正面を向かって並び、四股を踏み、その後蹲踞して、四股名を呼び上げられて、立ち上がって一礼し、土俵を下がる。）、現代相撲の取組にも出場しました。

その他、一門別選抜団体トーナメント（出羽海一門A優勝）、横綱三段構え、神相撲、横綱（豊昇龍関）五人掛かり、振鉢（えんぶ）、童相撲、そして、最後は、平安時代の相撲節会（すまいのせちえ）を現代版にした古式大相撲が行われました。百周年場所も満員の盛況で、企画・運営には、高崎親方が中心的に関わりました。

## ○母(大道マルガリータドミゴさん)逝去

後援会便り No.25 で父親の訃報をお伝えしましたが、母親の訃報もお伝えすることになってしまいました。九月場所の2日前、9月12日（金）消化器官の破裂による出血性ショックのため急逝されました。6月に行われた恒例の出羽海部屋木曽合宿には、元気で明るい笑顔を見せ、九月場所前もいつもように関取の活躍と無事を祈りつつ生活されていたことと思います。

10月5日（日）、木曽でお別れの会が行われました。喪主として挨拶した御嶽海関は、「怒られた記憶がない。いつもいつも優しかった。」「もっと話しておけば良かった。大きな味方がいなくなってしまった。」と母親をしのび、「自分は家族ができた。母が営んだ『ナイトイン・マルガリータ』を愛してくれた方々もいる。一人ではないことを実感した。」「相撲人生は続く。父、母のためにも頑張っていくので、応援よろしくお願ひします。」と力強く誓いました。

ロンドン公演にも参加した御嶽海関です。お別れ会で誓ったように十一月場所も土俵に立ちます。十一月場所は西前頭十三枚目。御嶽海関らしい相撲で頑張れるように、引き続き力強い応援をよろしくお願ひいたします。